

### 粘着トラップにおけるミカンキイロアザミウマの誘殺消長

古家 忠・古賀成司 (熊本県農業研究センター農産園芸研究所)

Tadashi FURUIE and Seiji KOGA : Seasonal Occurrence of the Western Flower Thrips *Frankliniella occidentalis* (PERGANDE) Caught by Sticky Trap

有色の粘着トラップは、害虫の簡便なモニタリング方法として用いられ、ミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis* (PERGANDE)についても黄色<sup>3)</sup>、青色<sup>2)</sup>、マリブルー<sup>1)</sup>等の粘着トラップが発生消長調査等に利用されている。本研究では、スイカ栽培ハウスに黄色および青色の片面平板粘着トラップ (以下、トラップとする) を設置し、ミカンキイロアザミウマの誘殺消長を雌雄別に調査した。

#### 1. 材料および方法

調査は、熊本県農業研究センター農産園芸研究所のガラス温室で行った。調査区は、畦幅 4m、長さ 6mの畦 2本とし、1997年2月28日にスイカ (品種:富士光 HF, 台木:かちどき2号) を各畦に 11株 (計 22株) 定植した。なお、育苗時にミカンキイロアザミウマの発生が見られたため、本圃への持ち込みを防ぐ目的で定植前日にフルフェノクスロン乳剤 2,000倍液を全株に散布した。誘殺消長の調査には、黄色および青色の粘着シート (商品名:ITシート, サンケイ化学製) を 10cm×10cmに切り、厚紙の片面に貼り付けて作成したトラップを用いた。トラップは、各畦に黄色および青色トラップを 1個ずつ (調査区内に各2個)、地上 30cmの高さに 2m間隔で設置し、粘着面は全て南側に向けた。調査は、3月24日から6月20日まで行い、トラップは7日毎に交換した。トラップに誘殺されたアザミウマ類は、実体顕微鏡下でミカンキイロアザミウマとその他のアザミウマ類に分け、ミカンキイロアザミウマについては、雌雄別に誘殺数を計数するとともに、性比 (雌率) を求めた。

#### 2. 結果および考察

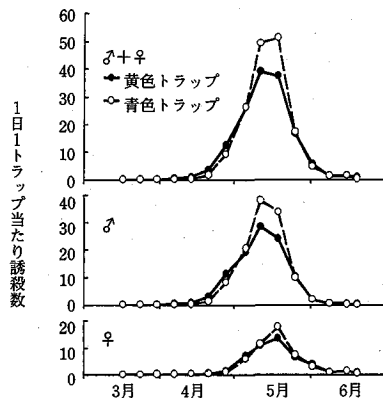
トラップへのミカンキイロアザミウマの誘殺は、黄色、青色トラップとも3月下旬に初めて確認され、4月下旬以降、急激に増加し、5月上~中旬をピークとする1山型の誘殺消長を示した (第1図)。誘殺消長を雌雄別で見ると、誘殺数が増加し始める時期、ピークになる時期とも雄が雌に比べて早く、性比の急激な低下が見られた。誘殺数は、ピーク時までは雄が多く、性比は 0.4 以下であったが、誘殺数の減少時期になると性比は徐々に高くなり、雌の誘殺数が雄に比べて多くなった。(第1図、第2図)。トラップの色別に見た誘殺消長、性比の推移は、黄色および青色トラップとも、ほぼ同様の傾向を示した (第1図、第2図) が、ピーク時の誘殺数は、雌雄とも青色トラップで多かった (第1図)。

施設バラやイチゴ栽培ハウスにおけるミカンキイロアザミウマの誘殺数は、3月下旬~4月上旬から急激な増

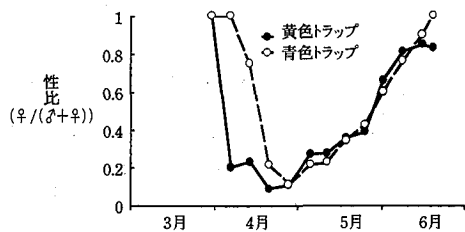
加が見られることが知られている<sup>2)</sup>。今回調査したスイカにおいても4月下旬以降にミカンキイロアザミウマの誘殺数が急激に増加したことから、この現象は施設栽培の作物において一般的にみられるものと思われる。トラップを用いてミカンキイロアザミウマの発生を調査するにあたっては、誘殺数が増加し始める時期やピークになる時期が雌雄で異なったことや、性比の変化が見られたことから、雌雄両方の調査が必要と思われる。また、調査に利用するトラップの色は、ピーク時に誘殺数の多かった青色トラップが適当と考えられるが、黄色トラップも青色トラップとほぼ同様の誘殺消長を示したことから、コナジラミ類やハモグリバエ類と併せて調査する場合には、利用可能と思われる。

#### 引用文献

- 1) 片山晴喜:植物防疫 52:176-179, 1998.
- 2) 嶽本弘之・大野和朗・池田哲也・林 恵子:九病虫研究会報 42:93-98, 1996.
- 3) 多々良明夫・片山晴喜:植物防疫 47:110-111, 1993.



第1図 粘着トラップにおけるミカンキイロアザミウマの誘殺消長



第2図 誘殺されたミカンキイロアザミウマの性比の推移